



〔海の状況 (7/16~8/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通して平年よりはなはだ高め (平年差 1.5℃~) で推移した。最高で平年を 4.7℃上回った。(図1) ※平年は、神子地先の過去30年平均
- ・米ノ地先の表面水温… 期間の中盤まで平年よりはなはだ高め (平年差 1.5℃~) で推移したが、以降は平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。最高で平年を 3.4℃上回った。(図2)

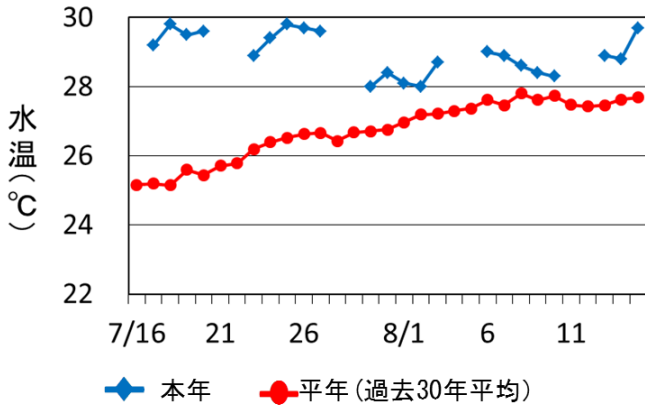


図1. 若狭町小川地先における表面水温の推移

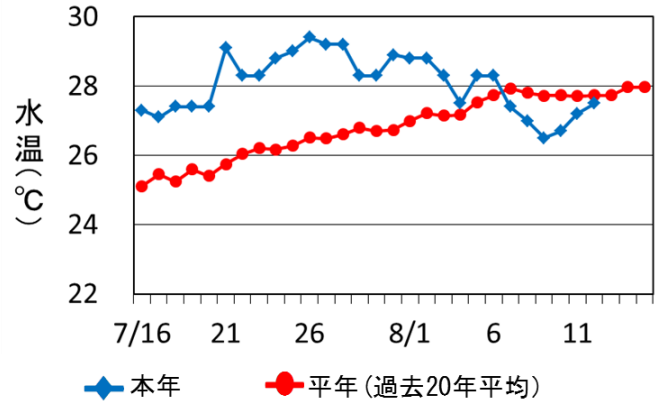


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：7月〕

7月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)では嶺北および京都・兵庫の沿岸から沖合で、18~20℃と前年より低くなっていた。水深100mでは山陰・若狭沖の冷水域の規模が前年より大きく、また、沿岸に近づいていた。(図3)

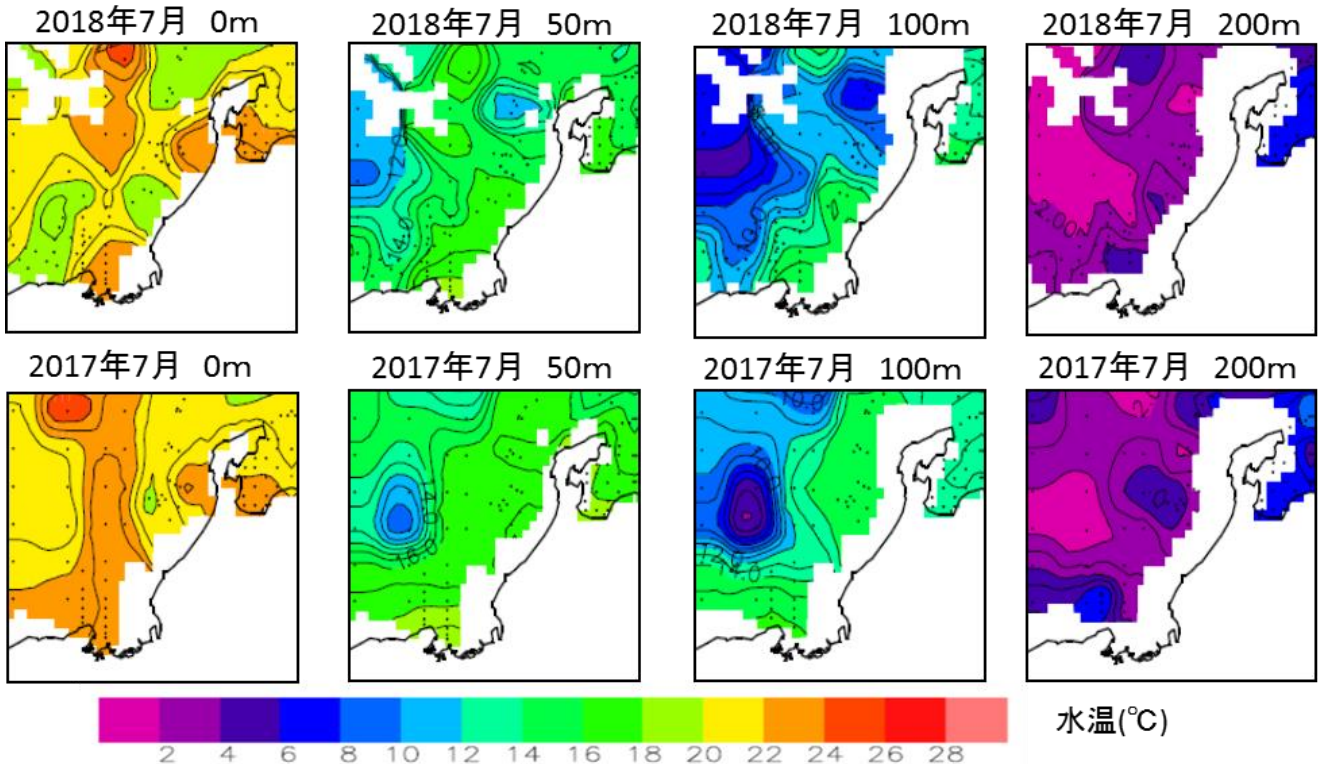


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

大型クラゲ情報

8月末までの日本海における大型クラゲの定置網、底曳網への入網状況は、長崎県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県、兵庫県、石川県において確認されております。

福井県でも7月1日、4日に越前町小樟定置網に、1個体ずつ入網が確認されています。

今後も大型クラゲが漂着または入網する可能性がありますので、十分ご注意ください。

(漁場環境グループ 桂田 慶裕)

〔県内の漁模様：7月〕

2018年7月の県内の総漁獲量は773tで、昨年同月と比べて322t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は563tで、昨年同月と比べて279t下回った。マグロ類、カツオ類、ヒラマサは上回り、サバ類、ブリ類、サワラは下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は25tで、昨年同月と比べて5t下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は185tで、昨年同月と比べて38t下回った。アジ類、キダイ、カマス等は上回り、サワラ、トビウオ、スルメイカ等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(7月)

定置網	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
マイワシ	2,957	568	2,177	2,390	781
カタクチイワシ	5,571	16,507	19,248	-10,936	-13,677
アジ類	54,281	64,988	127,607	-10,706	-73,326
サバ類	27,085	73,140	28,210	-46,054	-1,124
マグロ類	11,182	927	1,056	10,256	10,126
カジキ類	2,441	2,437	3,389	4	-948
カツオ類	6,314	390	2,560	5,923	3,753
ブリ類	157,897	216,847	250,644	-58,949	-92,747
(ブリ)	18,231	14,734	4,543	3,497	13,688
(ワラサ)	48,894	11,175	4,253	37,719	44,641
(ハマチ)	14,248	124,891	109,269	-110,644	-95,021
(ツバス)	73,074	52,317	129,011	20,757	-55,938
(アオコ)	3,451	13,729	3,568	-10,278	-117
ヒラマサ	15,124	1,857	1,996	13,267	13,128
シイラ	6,961	11,667	7,516	-4,707	-556
サワラ	175,067	339,085	165,049	-164,018	10,018
トビウオ	41,405	44,934	64,932	-3,530	-23,527
マダイ	12,593	10,815	10,085	1,778	2,508
その他タイ	2,375	2,875	1,546	-499	830
クロダイ	896	1,194	644	-298	252
スズキ	7,982	8,465	9,405	-483	-1,423
ヒラメ	1,162	1,472	1,186	-310	-23
カマス	2,061	1,721	5,928	340	-3,868
ケンサキイカ	11,209	21,805	13,532	-10,596	-2,323
その他イカ	3,341	144	2,269	3,197	1,072
タコ類	842	495	560	347	282
その他	14,395	20,160	16,033	-5,765	-1,638
合計	563,142	842,493	735,574	-279,350	-172,431

底びき網	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
ハタハタ	280	1,522	868	-1,242	-588
アカエビ	24,271	28,119	24,335	-3,848	-64
その他	306	547	1,290	-240	-984
合計	24,857	30,188	26,493	-5,330	-1,636

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
カタクチイワシ	581	0	40	581	541
アジ類	2,474	139	722	2,335	1,751
ツバス	602	0	59	602	543
サワラ	6,340	9,982	2,942	-3,642	3,398
トビウオ	1,393	2,626	873	-1,233	520
マダイ	1,189	926	2,217	263	-1,029
キダイ	6,389	5,395	5,969	994	420
アマダイ	3,545	3,735	4,611	-189	-1,066
スズキ	2,270	1,479	5,717	791	-3,447
その他カレイ	666	1,057	1,682	-391	-1,016
カマス	1,935	0	63	1,935	1,872
メバル類	1,462	2,367	3,156	-905	-1,695
スルメイカ	21,622	31,543	50,175	-9,920	-28,553
ケンサキイカ	2,001	1,850	5,251	151	-3,250
タコ類	28,799	36,336	40,439	-7,537	-11,640
その他	104,044	125,541	162,203	-21,497	-58,159
合計	185,312	222,975	286,122	-37,664	-100,811

全漁法	(kg)				
	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
合計	773,312	1,095,656	1,048,189	-322,344	-274,877

※1 平年の値は2008-2017年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカカレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：7月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：7月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：7月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：7月中旬～8月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類4.8t、マアジ3.4t、トビウオ2.6t、マイワシ6.8t、フクラギ・コソクラ(1kg以下のブリ)2.5t

京都府…定置網…サワラ類2.8t、ツバス2.3t、マアジ1.6t、トビウオ0.7t、スズキ0.4t

兵庫県…定置網…マアジ259kg、シロイカ(ケンサキイカ)118t、トビウオ104kg、ツバス(1.5kg未満のブリ)77kg

鳥取県…まき網…マアジ9.1t、ウルメイワシ6.8t、マサバ6.6t、ブリ類2.5t、マイワシ0.9t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

ヒラメの標識放流を行いました！

標識のついたヒラメを見かけましたら、ご連絡をお願いします！

水産試験場では、ヒラメの放流効果や放流後の移動を調査するために、福井市越廼地先において外部標識を装着したヒラメを7月31日に放流しました（右図）。

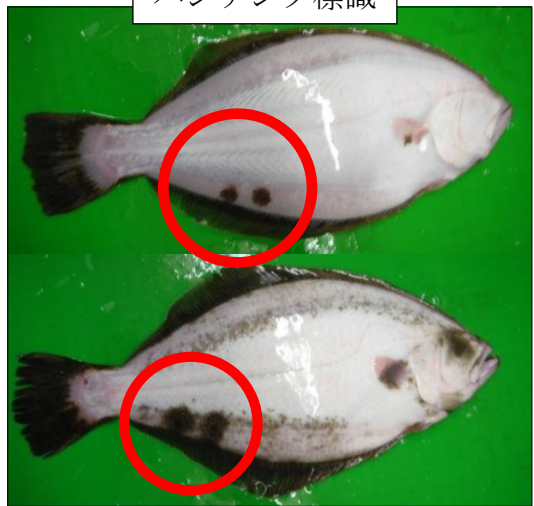
標識は昨年、一昨年と同様にアンカータグとパンチングの2種類の標識を施した約5,500尾のヒラメを放流しました。アンカータグはヒラメの頭部付近に約3cmの赤色のプラスチック製タグを装着しています（下記写真左）。また、パンチングは無眼側の腹側に2つ並んだ斑点をつけています（下記写真右）。



アンカータグ標識



パンチング標識



**標識のついたヒラメを発見した場合は、
発見日(〇〇年〇月〇日)、漁獲場所(〇〇沖、〇〇km)、魚の大きさ(全長)
につきましてご報告をよろしくお願いします。
※標識魚は買い取りの相談もさせていただきたいので、魚の確保をよろしくお願いします。**

また、日本海側の各府県でもヒレの一部をカットしたものやタグを装着したヒラメを放流しています。水産試験場ではこれらの情報についても収集していますので、発見した際はご連絡をお願いします。

最後に、暑い中標識の装着作業にご協力いただいた嶺北地域栽培漁業推進協議会の皆様に御礼申し上げます。

(漁業管理グループ 元林 裕仁)